

あまみのくろうさぎ

奄美市立名瀬小学校 一年 まるたるか



むかしむかし あまみ大しまという 美しいしま
にくろいうさぎがすんでいました。

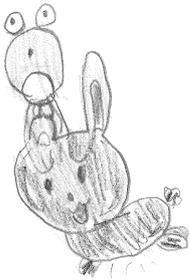
うさぎが もりを あるいていると、おっとんがえ
るくんが ないていました。

うえーん
うえーん

おっとんがえるくんは、はらぺこでなっていたので
す。うさぎは、いいました。

「ぼくは、なにももってない。だから このみみを
たべておくれ。」

ああ おなかいっぱい。
ウワフ ウワフ



うさぎが もりを あるいていると、アマミトゲネ
ズミがなくていました。

「どうしたの？」

「おなが ペこぺこなん
だよ。」

「じゃあ ぼくのみみを
たべていいよ。」

チュウチュウ

「ありがとう。おいしかったよ。」

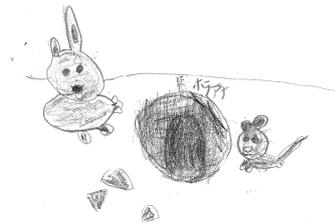
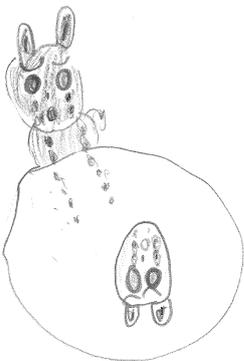
アマミトゲネズミは、よろこんで かえりました。う
さぎのみみは ふたつとも みじかくなってしまいま
した。

あるひ うさぎは、みずたまりにうつった じぶん
のかおをみて、おどろきました。

「ああ、なんてすがたなんだろう！」

「みんなうさぎは みみがないのに ぼくだけみじか
いんだ。あーいやだなあ。」

おおつぶのなみだが
ぼたぼた みずたま
りに おちました。



うさぎは よるまで ないていました。大きな月が森を ピカピカ てらしています。

そのとき 草むらから ハブくんが でてきました。

「うさぎさん、どうしてそんなに ないているの？」

うさぎは、なきながら いいました。

「みみがみじかい うさぎなんて かつこわるいよね。」

ぼくが みみの かわりになつてあげるよ。ほらっといつて

ハブくんは うさぎのあたまにとびのりました。

「ありがとう。」

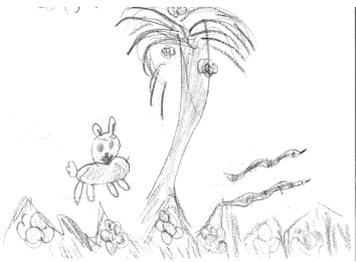
うさぎは、おおよろこび。それから うさぎとハブくんたちは、なにをするにも いっしょでした。

あるひ、ハブくんたちが いいました。
「もう ぼくたち かえらなくなっちゃ。」

うさぎは、とても さびしくなりました。

ぼくは このみじかいみみでも、

だいじょうぶ。ハブくん ありがとう。



うさぎは もう かなしくありません。だって ハブくんが こういつてくれたから

「みみがみじかいのは、うさぎさんの やさしいころの しょうこだよ。」

つて。

それから うさぎは、みじかいみみで、もりのなかまたちと なかよくくらししました。

それいらい あまみ大しまの もりには、みみのみじかい くるいうさぎが いるんです。

あまみのくるうさぎ と、よばれています。

